

# 子牛や育成牛、豚などを対象とした 機動性と機能性に富む保定装置の開発

伊東 正吾 准教授  
Seigo Itoh / Associate Prof.

麻布大学 獣医学部 獣医学科 内科学第一研究室  
AZABU University, Department of Veterinary Medicine, School of Veterinary Medicine

佐藤 礼一郎 講師  
Reiichiro Sato / Assistant Prof.

麻布大学 獣医学部 獣医学科 内科学第三研究室  
AZABU University, Department of Veterinary Medicine, School of Veterinary Medicine

## 背景と目的

ウシ(子牛、育成牛)やブタ(子豚～経産豚)を対象とした、機動性と機能性に富み、生産現場でも利用できる市販の保定装置は、殆んど見当たらない。

子牛の臍部処置の際は、床や軽トラックの荷台上で実施することが多く、豚の場合は、胚移植時の処置等での利用できる保定装置が少ない。



⇒ 対応可能な保定装置を製作する。

## 【基本構想】

「動物と施術者双方に安全でかつ衛生的に処置が可能となる」

1. 機動性 (可搬式) : 軽トラックや普通車バンの荷台に積載可能
2. 仕様
  - length (60~180cm)
  - height (400~830cm)
  - 保定側板角度 (45°, 60°)
  - 四肢保定 (上下)
3. 耐荷重500kg

## 特 性

1. 四肢の保定方法が二方向のため、術者の作業領域が広く確保できる。
2. 側板の立ち上げ角度が2段階式のため、また、連結方式であるため、動物の大きさに幅広く対応可能。

## 期待できる効果

1. 生産現場における衛生的で処置者の負担を軽減した作業環境の確保。
2. 保温機能の併用により、処置中の出血量の低減化や、麻酔処置からの回復が早くなる。

豚での使用状況



台車ハンドルと降下ハンドルは  
脱着可能



低位置で  
非連結時の状況

子豚や子牛では  
一台で対応可能  
(左, 下左:牛)

子牛での使用状況



特許出願中：特願2015-104605